

第4回子ども・子育て会議における 委員発言概要

令和7年（2025年）2月18日
健康福祉部



第4回子ども・子育て会議委員発言概要（総論関係）

- 計画の策定にあたり、県医師会や歯科医師の意見を聴いた方がよいのではないかな。
- 「特別な配慮が必要なこども」という表現について整理をしてほしい。
- こどもには、関わる人に活力を与える力があることをもっとアピールした方がよい。
- アートには、人の心や疲れを癒す力がある。こどもにオープンな美術館も増えてきているので、そういったところと連携することで、新たな発想での取組みが生まれるのではないかな。
- 計画を具現性の高いものとするため、財源の確保にもしっかりと取り組んで貰いたい。
- 計画の概要資料でわかりやすくまとまっていて良いと思う。
- 就職先となる企業が地域にないといったことも若者が地域から出て行ってしまう原因になっていると思うので、今、人口が減少している地域では、企業の誘致等について市町村を挙げて頑張っていかなければならないと思う。

第4回子ども・子育て会議委員発言概要（各論・その他関係1）

- 保育士に加え、保育教諭の人材確保についても計画で触れて貰いたい。
- ブライト企業そのものの制度の充実についても計画で触れて貰いたい。
- よかボス企業の質の確保のため、認定後のフォローアップの実施等についても検討して貰いたい。
- 「愛の1・2・3運動+1（プラスワン）」を実施することにより、先生方への負担はあると思うが、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携して対応することにより、負担の軽減を図ることは考えられる。また、以前から行われてきた取組みであるため、計画に記載したことにより負担が増加することは無いと思う。
- 中高生に対してだけでなく、幼少期から性教育を行う必要があるのではないかな。
- 不登校の生徒が学校以外にも通える居場所を整備することで、いろんなことに夢を持てる児童生徒が増えるのではないかな。
- 学校に必ずしも行けないこどもたちが多様な個性を発揮して生き活きと関われるような場の整備についても前向きに検討して貰いたい。
- こどもたちが不登校になるのを防ぐため、もっと幼保等・小・中の連携に取り組んで貰いたい。
- お母さんばかりに負担が掛からないよう、こどもが病気の際にお父さんが帰りやすい職場づくりに積極的に取り組んで貰いたい。

第4回子ども・子育て会議委員発言概要（各論・その他関係2）

- 不登校のこども、虐待を受けたこどもをどう支えていくかについても、計画の中で触れて貰いたい。
- 小学校・中学校でこどもが不登校になってしまう家庭は、乳幼児期に保育所等でも支援が必要であった家庭が多いのではないかと思うので、保育所等で何か課題に気づいた際は、行政の母子保健やこども家庭センター等と連携し、支援していくことが必要。
- 保健師が産婦と関わる中で、本当に産後ケアを受けて欲しいと感じる人の方が産後ケアを受けていないという現状がある。
- 保健師の訪問で産後うつの疑いがある産婦について、どこの医療機関につなげばよいかわかるようにして貰いたい。
- フリースクールにこどもが通うにあたっては、補助がないし、地域によっては利用できる施設が無い。現状でフリースクールを安易に不登校のこどもの居場所と言ってしまうとよいのかという懸念がある。
- T SMCの進出を受けた、こどもたちからの「お金よりも食、田んぼが大事だ」という意見が非常に心に響いた。
- 今年から児童育成支援拠点事業を実施しており、利用者としては不登校のこどもが一番多い。様々な支援を継続するなかで、「高校に行きたい、学校でこういった勉強がしたい」といったことをつぶやいてくれるようになった。何とかやっていけそうだという手ごたえを感じるとともに地域のこどもたちを支えているという実感がある。

第4回子ども・子育て会議委員発言概要（指標関係）

- 保育教諭の数・新規登録者数・平均賃金も指標に加えて貰いたい。
- 学校が楽しいと感じるこどもの割合や、いじめが原因で自殺したこどもの数、こどもや子育て・育児に関わる人が大切にされていると思う県民の割合を数値目標に加えて貰いたい。又は、数値目標を掲げないにしろ、計画を通して、こども一人ひとりの命が大事にされていること、子育てに関わる仕事をしている人はとても大切な仕事をされているというメッセージを、様々な場で発信して貰いたい。
- こどもだけでなく若者に関する数値目標も加えて貰いたい。